

夏のレジャーに潜む危険! 安全に楽しむためのポイント

バーベキューや車でのお出掛けなど、夏は楽しいレジャーがいっぱい。一方で、火や熱による事故も起こりやすい季節です。製品の正しい使い方を知り、安全に夏を楽しみましょう。



消防係
高原さん

着火剤のつぎ足しは危険!

バーベキューで使う着火剤は、火が弱くなったからといって途中でつぎ足してはいけません。突然大きな炎が上がったり、火が飛び散ったりして、やけどにつながるおそれがあります。着火剤は使用量を守り、火を付けた後のつぎ足しは絶対にやめましょう。



スプレー使用後は火気に近づけない!

冷却スプレーや制汗スプレーの多くには、燃えやすいガスが使われています。使用直後にたばこやライターの火を近づけると、引火するおそれがあります。使用するときは火の気のない風通しの良い場所を選び、使用後もしばらくは火気を避けましょう。



着火剤のふたを開けたまま火の近くに放置して引火・爆発した事故も...



虫よけ、殺虫剤、日焼け止めなど、夏はスプレーがたくさんあるので注意

車内への置きっぱなしに注意!



ハンディー扇風機も置きっぱなしは厳禁



真夏の車内は想像以上の高温になります。スプレー缶やガスライターを置いたままにすると、破裂や発火の原因になることも。スマートフォンやモバイルバッテリーなども熱に弱いため、車を離れる際は車内に残していないか確認しましょう。

ほかにも気を付けたい夏の事故

■花火は大人と一緒に

花火によるやけどや目のけがなどの事故は、子どもに多く発生しています。必ず大人が付き添い、安全に楽しみましょう。

■カセットこんろの事故に注意

大きな鍋や鉄板を使うと、ボンベが過熱されて爆発する危険があります。取扱説明書を確認し、正しく使用しましょう。

予防課 ☎お太助フォン 42-3951 47-1191



安芸高田 歴史紀行

あきたかた
れきしきこう



安芸高田市歴史民俗博物館
学芸員 古川 恵子

あの日の記憶は
写真の中にII [36]

1943(昭和18)年 献納機「百万一心号」 (歴史民俗博物館蔵)



絵はがき包紙
包紙には7月と記されていますが実際は8月7日に命名式が挙行されました。

大海原を飛ぶ百万一心号。といってもこれは合成写真です。翼に記された機体名を変え、別の献納機の絵はがきでも使用されています。海軍に献納される軍用機の名は全て報国号、陸軍は愛国号となり機体ごとに番号が振られましたが、別に献納者にちなむ名前(百万一心号)も付けられました。
絵はがき左下:「報国第1311号(百万一心号)(艦上戦闘機)海軍省」

【お詫びと訂正】



広報「あきたかた」7月号の「推し城」位置図でB高城の位置に誤りがありました。正しくは上記位置です。訂正しお詫びいたします。

今回紹介するのは、戦時中、高田郡民が海軍に献納した「百万一心号」の記念絵はがきです。戦争が本格化すると全国的に軍用機献納運動が盛んとなり、高田郡でも1943年2月に「百万一心号」の献納運動が始まりました。毛利元就の逸話「百万一心」は当時の日本国民に求められた団結を表すキャッチフレーズとして広く用いられました。目標を超える16万円余りの献金により、海軍と陸軍に一機ずつ「百万一心号」の献納が決まりました。

同年8月7日、海軍機の命名式が吉田国民学校(現吉田小学校)の講堂で行われ、正式に「百万一心号」と命名されました。他に神事や海軍大臣(代理)からの感謝状交付と謝辞、児童代表あいさつ、万歳三唱などがあり閉式。午後からは吉田国民学校児童による百万一心劇、校庭では海軍音楽隊による演奏、海軍軍事映画会がありました。式には約3千人が参列したと当時の記録にあり、誇張かもしれませんが郡民の関心の高さが伺えます。

陸軍に献納された「百万一心号」の命名式は10月に行われました。